

センスオブワンダー2022

当会は平成17年度の愛知万博後の平成19年度からあいち海上の森センターが開校した海上の森大学の修了生でつくる同窓会が母体です。各地で活躍されている会員のみならずだれもが海上の森から発信する活動の場として平成30年にあいち海上の森交流会と名称変更しました。海上の森を歩けば様々な生き物に出会うことができます。その姿は産卵直前の姿だったり獲物を求めているための姿だったり様々です。なぜ生き物は獲物がいつどこで現れるのかを知っているのでしょうか? 「ここでしか・この時期でしか・この時間でしか」見られない生き物の姿を見ることによって生き物たちの不思議さを感じ取ってもらい、多くの生き物が棲める環境について考えてもらえるよう「センスオブワンダー」を企画しました。

7月には31家族80名以上の応募がありましたが、コロナ感染者増大、天気による日程変更によるキャンセルにより21家族56名参加の行事になりました。

「えものを待つ生き物・探し回る生き物を探そう」 7月30日(土)

この時期の早朝沢沿いの小径にチュウガタシログネグモの出来立ての網をたくさん見ることができます。クモは獲物を探し回るのではなく獲物の通り道に網を張ってじっと待ちます。なぜ獲物の通り道をよく知っているのでしょうか。一方餌を求めてここまでやってきたカエルの生まれた場所は田んぼです。餌がある場所を探してやってきたのです。朝は生き物たちの活動開始の時間です。

早朝 いたるところに見られる



網の張る場所と張り方で獲物の



バッタを入れても食いついてこない
餌は小さな水生昆虫のようだ



観察会風景



「不気味でかわいい生き物から見てくるもの」 8月6日（土）

コウモリは日没後しばらくすると餌を求めて空を飛び始めます。コウモリは目が見えません。人間の耳では聞こえない超音波の音を出して獲物を探します。耳年齢アプリを通して超音波を理解してもらいました。夜は昼より安全と思って飛び立つ虫もコウモリは夜でも獲物を捕まえることができます。野外で「コウモリと蛾」のゲームを通して理解してもらいました。研修室に戻ってクモの餌の取り方の説明を聞いた後工作をしました。工作をしている時ヒメグモが獲物を捕らえる場面が見られ子どもたちの歓声があがりました。不気味そうに見える生きものが親近感あふれる生き物に一瞬に変わりました。

ゲーム「コウモリと蛾」



クルミの殻で作ったクモ



ヒメグモが獲物を吊り上げる光景を見て歓声を上げる子どもたち



「アリの行列を見よう」 8月27日（土）

アリの好きそうな餌を持ってきてもらい思い思いの場所に置きどんなアリが集まって来るのか調べる活動は人気があります。餌をおいて1時間もしないうちにアリが群がっています。歩き回っている1匹のアリがみつけて仲間にしたのでしょうか。えさのにおいを感じて一斉に集まってきたのでしょうか？集団生活に魅力を感じる子はかなり多いです。身近なところでいつでもどこでも見られるアリであるが種類の多さに驚き、おもしろい個性を見せてくれます。ここで確認された20種類のアリ図鑑をもってみんなで調べたら15種類のアリを見つけることができました。

クロクサアリなどのアリの生態を動画で解説



おかしに集まるクロヤマアリ



おかしを運ぶアズマオオズアリの小型



カマキリの脚に集まるハリブトシリアゲアリ



バナナに集まったヒメアリ



アオオビハエトリグモに捕らえられたアリ



「夕方活動を始める生き物を探そう」 9月4日（日）

夕方暗くなると周りから一斉に鳴く虫たちの声が聞こえ始めます。コウモリやクモ・カエル・ヤモリ・カマキリなどの生き物も夜活動する生き物を求めて活動開始です。コウモリは日没後まもなくすると頭上に飛んで来ます。昼間葉の裏に潜んでいたクモも暗くなると網張りを開始します。カマキリの目は黒くなり、獲物を待つ姿に変身し、カエルがトイレの光に集まる虫たちを求めてやって来ます。海上の森の暗闇の中で虫の声を聞きながら生き物同士のバトルの様子を見て、星を見ることは宇宙の雄大さ・神秘さを感じ取ってくれるのに適した場所でもあります。

月を見る



土星を見る



カマキリの餌食になったバッタ



暗くなると目が黒くなった



ブラックライト 蛍光灯 LEDライトに集まる生き物

ブラックライトにはたくさんの虫が集まる



トイレの中にはカエルもいた



ヤモリも現れる

